



オンボーディング 概要



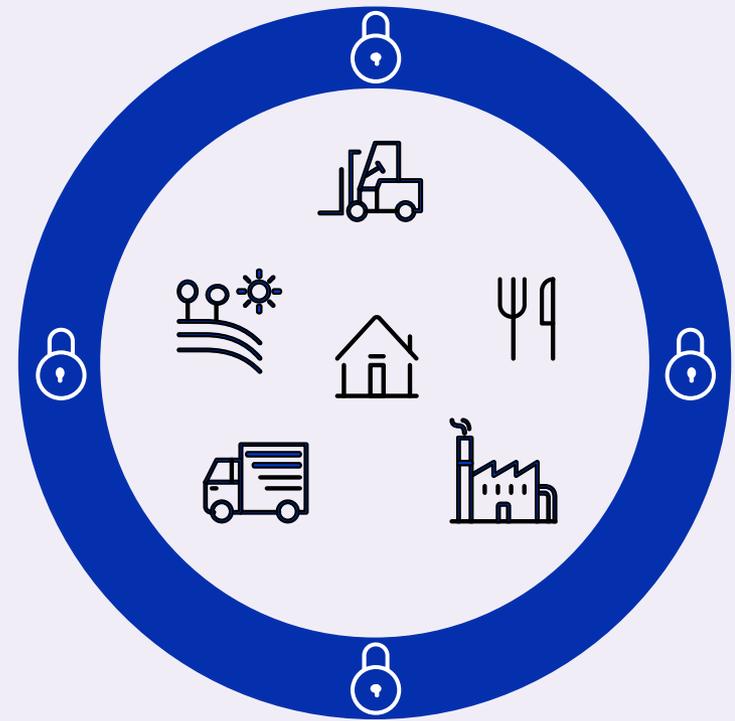
貴社のデータを 容易に追加



IBM Food Trust™にデータを追加する方法はいくつもあります。
このオンボーディング概要でそれをご紹介します。

ブロックチェーンについて知っている必要はありません。
現在利用されているデータを自社の標準のままお使いいただけます。

ブロックチェーンのことを知っていることが重要ではないとしたら、なぜブロックチェーンは食品にとって重要なのでしょうか？



分散されている。ブロックチェーン上のデータは関係者間で分散型の台帳に複製され、共有され、同期されています。管理者は必要ありません。各組織が所有、管理しているデータベースとは異なり、ブロックチェーンは独立したデータ共有プラットフォームです。

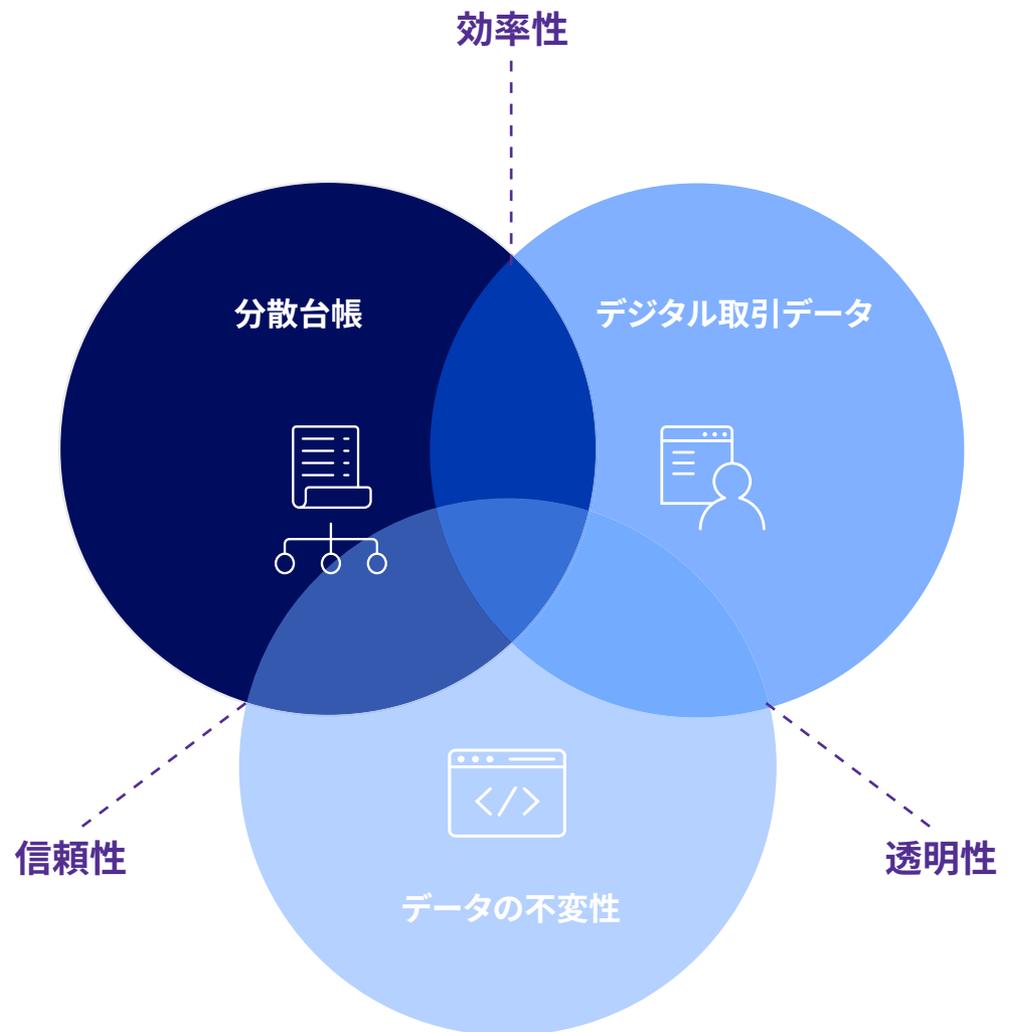
不変性。これは、データがいったんブロックチェーン上に入力されたら、削除できない(データベースのデータとは違う)、ということです。編集は新規情報の追加、情報の更新でしか行えません。ブロックチェーンでは、入力、編集されたすべてのデータは永続記録となり、監査証跡として扱われます。また、あなたが持つ知識なしにあなたの情報を更新することもできません。

デジタル台帳。これは、ブロックチェーンに限ったことではありませんが、効率化の利点を活用するためすべてのデータ、処理、トランザクションのデジタル化が進んでいます。

ブロックチェーンでいかに食品 業界の根本的問題に取り組むか？

ブロックチェーンの特徴が集約され、
より信頼でき、透明性が高く、効率的な
データ共有プラットフォームを生み出
します。

すべての人にとってスマートで安全な
フード・サプライを可能にします。





どのようなデータをIBM Food Trustに追加できるのでしょうか？

マスター・データ

施設のロケーションと取引品目の内容。大部分は静的情報として記録

取引データ

注文書、事前出荷情報、受領確認など。

証明書データ

監査日時、監査結果（点数）、有効期限などの証明書を記述

EPCIS イベント

GS1 EPCIS 標準に対応した、サプライ・チェーン上の実世界イベントの記述。

ペイロード・データ

EPCIS イベントにリンク可能な、サプライ・チェーンに関する洞察を強化できる追加の食品関連データ（温度、湿度など）

追加情報は[ここ](#)で閲覧できます

IBM Food Trust 標準EPCISイベント

EPCISイベントは、1つ以上の取引アイテムに対して発生する実際のイベントを特定します。
これらは、フード・サプライにおける5W1Hの記録です。



Commission

オブジェクト(例えば収穫)作成を示します



Decommission

オブジェクトの削除を示します



Transformation

オブジェクトの不可逆な変換を示します(例えばマンゴーをマンゴー・スライスに)



Aggregation

オブジェクトのグルーピング(例えば10個のマンゴーをマンゴー1ケースに集約させます)



Disaggregation

オブジェクトを小さなグループに分けます(マンゴー1パレットを複数の箱に分けます)



Observation

観測を示します(例えば店舗でのパッケージ・ラベルのスキャン)

対応するEPCISイベントが割り当てられた 実際のイベント

農家



Commission

Aggregation

製造工場



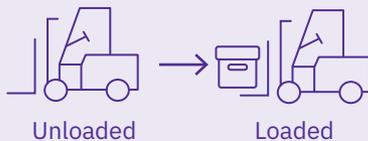
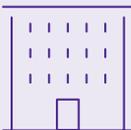
Disaggregation

Transformation

Transformation

Aggregation

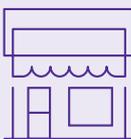
配送センター



Disaggregation

Aggregation

店舗



Disaggregation

Observation

データの 統合方法

このガイドの他に、以下のオプションを選択していただくことで、IBM Food Trustに簡単に着手できます

自動化

製品シナリオ (Product Scenario Builder の出力) を表すのに必要なそれぞれのイベント、トランザクションに対して、このデータがどこでデジタルに収集できるのか判断して、それをアップロードするようシステムを自動化します。詳細については [Developer Zone](#) をご覧ください。**App Connect** と **SAP** のインテグレーション・サポートが Assisted Onboarding サービスで利用できます。(ページ 10 を参照してください)。

XML アップロード

Product Scenario Builder を利用して、サプライチェーンの商品、施設、イベント・データの詳細をマッピングします。IBM Food Trust にアップロードする必

要のあるイベント、トランザクションを定義して、そのデータの XML を提供します。

Excel アップロード

スプレッドシートを使って、データを記録し、IBM Food Trust に直接アップロードします。この方法は商品、施設、イベント、トランザクション・データのアップロードをサポートします。

直接データ入力

製品とシナリオの詳細を IBM Food Trust の Onboarding セグメント内で登録することで、データを手動アップロードします。

データにアクセス できる対象者は 誰でしょうか？

IBM Food Trust では所有して
いるすべてのデータのアクセ
ス・レベルを管理できます

Open

データはすべてのIBM Food Trust参加組織と制限なしに共有します(例えば公に知られている施設のロケーション・マスター・データ、誰でも利用できる商品(GTIN)のオブジェクト・マスター・データなど)。

Private Data

明示的な許可で共有しない限り、提出した組織にしか表示されません(例えば組織内部の処理に関するイベント・データ、非公開のロケーション・マスター・データや装置)。

Restricted Data

XML文書で明示的に参照されている会員組織とのみ共有します(例えば注文書、発送通知書、受領通知など、トランザクションで他の関係者を明示的に参照しているもの)。

Linked

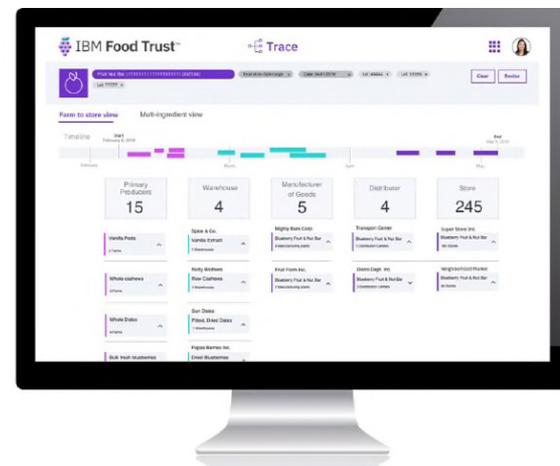
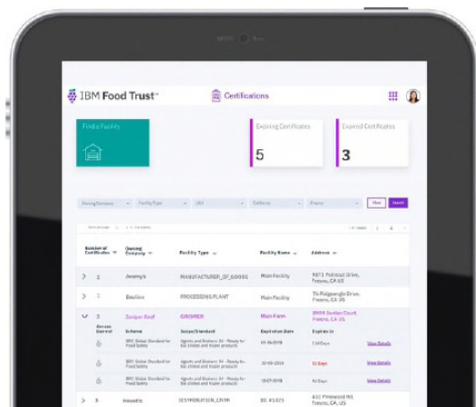
文書は、参照している商品のLGTINビジネス・トランザクションに関係のある関係者とのみ共有します(例えば特定の関係者とのトランザクションに関連したイベント・データ)。

購入可能な IBM Food Trustモジュール

IBM Food Trustにはスケーラブルなモジュールがあり、
業界の悩みに対応し、新たな価値を貴社に提供します:

トレース >

サプライ・チェーンの上流から下流へ食品の
ロケーションとステータスが追跡できます。

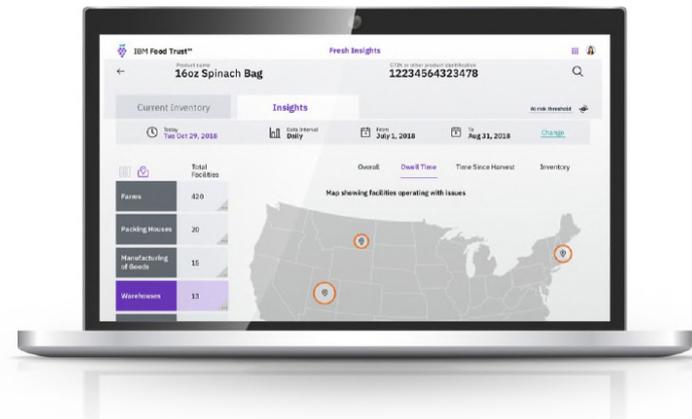


< 証明書管理

デジタル化された記録と文書に瞬時にアクセスすることで、
信頼性と説明責任をもたらします。

フレッシュ・インサイト >

リアルタイムにサプライ・チェーンのデータにアクセスして、
食品の新鮮さと賞味期限を伸ばします。



最新の製品については[こちら](#)をご覧ください

IBM Food Trust



オンボーディングと サポート・オプション

このガイドの他に、以下のオプションを選択していただくことで、IBM Food Trustに簡単に着手できます

セルフ・ガイド・オンボーディング

セルフサービスを利用した独力でのオンボーディング教育、コミュニティ・フォーラム

→ 無料 – サブスクリプションに含まれます

仮想ガイド付きオンボーディング

事前定義された教育モジュールで専門家と対話しながら、追加質問ができます

→ 1回払い – IBM担当営業にご連絡ください

支援付きオンボーディング

オンボーディング全体をガイドしてくれる専門家へのアクセスと、App Connect、SAPのインテグレーション・サポート・サービス

→ 1回払い – [IBM®担当営業](#)にご連絡ください

標準IBM Food Trustサポート

デジタル・サポート・ポータルにアクセスして、チケットによる問題解決の透明性を向上、およびチャット、電子メール、フォーラム、電話など選択された手段での支援

オンボーディング、サポート・サービスの購入に関しては[こちら](#)にアクセスしてください。

IBM Food Trust

次のステップ



1. 企業規模（大、中、小）とビジネス・ニーズに応じてサブスクリプションを選択、カスタマイズします。
2. 該当のインテグレーション・オプションを決定します（自動化、XML アップロード、Excel アップロード、直接データ入力）。
3. 該当のオンボーディング・オプションを決定します（セルフガイド・オンボーディング、仮想ガイド付きオンボーディング、支援付きオンボーディング）。
4. [さあ、始めましょう。](#)

その他のリソース



IBM Food Trustが自社にもたらす利点:

ibm.com/food

Developer Zone:

<http://ibm.biz/ftdevwiki>

コミュニティ・サポート:

<http://ibm.biz/ftcommunitysupport>

